

三島工業団地ニュース

No.18 令和4年2月1日

Vol.43 三島工業団地協同組合

【組合会館建て替えと落成式の紹介記事】

静岡県中小企業団体中央会の機関紙「中小企業静岡2022年1月号」に当組合の組合会館建て替えと落成式の模様が紹介されました。

原本は組合事務所にありますので、いつでもお寄りいただきご覧ください。

Business Report

組合の動き

50年親しんだ組合会館をリニューアル！ 落成式を開催

三島工業団地協同組合（諏訪部敏之理事長）は、11月24日（水）に組織運営の新たな拠点となる組合会館の落成式を執り行った。

昭和39年に設立した同組合は、その後3年間を掛けて工業団地を造成。この時に建設された組合会館は、事務局機能を備えるとともに役員会や全員協議会等を開催する“組合運営の拠点”として使用されてきた。50年以上にわたり慣れ親しんできた会館であったが、老朽化を理由に約1年半前に建て替えを検討。同年12月には理事及び組合青年部である青工会のメンバーで構成する建設準備委員会を創設し、建物の間取り・仕様・外観や内装など細部について協議を重ねた。7月21日には地鎮祭を行い建設工事の無事と完工を祈願。その後、工事は順調に進み、晴れて落成式を迎えるに至った。

当日は、豊岡武士三島市長や三島信用金庫平井敏雄理事長、静岡県立工科短期大学柳下福蔵校長などの来賓並びに組合員ら総勢48人が参列し、会館の完成を祝った。挨拶に立った諏訪部理事長は、「組合会館のリニューアルを契機に、組合活動をより活性化し、一致団結して地域のものづくりを牽引する拠点となるよう一層努力していきたい」と話した。

同組合は、集団化事業で造成された工業団地としては県東部地域において2番目に古い歴史を持つ。今日では機械金属工業に関連する事業者が所属しており、異業種ならではの組合員のニーズを反映した各種研修会を開催するなど、各社の経営の向上に努めている。新会館は12月1日に稼働となり、組合員の新たな拠り所として今後も親しまれていく。

三島工業団地協同組合



▲三島工業団地（協）諏訪部敏之理事長



大変遅くなりましたが、落成式の模様は「静岡新聞 2021年11月28日(日)朝刊」にも掲載されました。改めて紹介させていただきます。



新組合会館の完成を祝う落成式典
＝三島市長伏

三島工業団地の新組合会館完成式典開催「活性化を」

三島市長伏の三島工業団地協同組合はこのほど、老朽化に伴い建て替え工事を進めていた組合会館の落成式典を開いた。

同組合は1964年に発足し、66年8月に新築された旧組合会館は年に3回程度の勉強会に加え、理事会や総会などに使われた。新会館は従来の2階建てから平屋建てとなり、

広さは約134平方メートル。組合に所属する28社の拠点として12月1日から稼働を開始するという。落成式典であり、諏訪部理事長は、旧会館が建設された当時の日本経済を「かなりの不況だった」と振り返り、コロナ禍で低迷する現在の経済状況について「新会館の建設を機に日本の景気がどんどん上向くとともに、企業の自助努力で組合の活性化を図っていきたい」と述べた。